

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K03191

研究課題名（和文）ジャコバン独裁末期におけるロベスピエールとパリの世論

研究課題名（英文）Robespierre and Public Opinion in Paris at the End of the Jacobin Dictatorship

研究代表者

松浦 義弘 (Matsuura, Yoshihiro)

成蹊大学・文学部・客員研究員

研究者番号：60229416

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題に関係する研究成果としては、『ロベスピエール：世論を支配した革命家』（山川出版社、2018年）、および「テルミドールにおける「ロベスピエール=王」という噂をめぐって」（佐々木紳ほか『歴史の蹊、史料の杜』風間書房、2023年）を上梓したことがある。
以上の他に、本研究課題とは直接関係しないが、「大西洋世界のなかのフランス革命」（木畑洋一ほか『岩波講座世界歴史15』2023年）、共編著『東アジアから見たフランス革命』（風間書房、2021年）、「フランス革命をどう考えればよいのか：拙著に関する服部春彦氏の批判をふまえて」（『史学雑誌』第28編第1号、2019年1月）などを公にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでのロベスピエール研究は、ほぼすべてロベスピエールの著作だけに基づいてロベスピエールを論じており、ロベスピエールの権力掌握と失墜の問題をパリ民衆の世論=言説という観点から検討した研究は皆無である。本研究は、ロベスピエールに関するパリ民衆の世論=言説という新しいファクターをロベスピエール研究に導入するものであり、従来のロベスピエール研究を更新する研究になると想定される。
また、本研究は、革命期のロベスピエールの言説とパリ民衆の世論=言説を比較検討することによって、革命政治史や革命期の言説空間についても新たな知見をもたらす可能性をもつと思われる。

研究成果の概要（英文）：Major research achievements during the research period include the publication of Robespierre: The revolutionary who dominated public opinion (Yamakawa Shuppansha, 2018) and "On the rumor of 'Robespierre = King' in Thermidor" (Shin Sasaki et al., Paths of History, Woods of Materials, Kazama Shobo, 2023).

In addition to the achievements above, although not directly related to this project, I published The French Revolution in the Atlantic World (Yoichi Kibata et al., Iwanami Koza Sekai Rekishi 15, 2023), The French Revolution Viewed from East Asia, co-deited by Matsuura and Yamazaki (Kazama Shobo, 2021), and How to Think about the French Revolution? (Shigaku Zassi, Vol. 28, No. 1, 2019).

研究分野：フランス革命史

キーワード：ロベスピエール フランス革命 世論 パリの民衆 テルミドール

1. 研究開始当初の背景

これまでのロベスピエール研究はほぼすべて、ロベスピエールの著作だけを根拠にロベスピエールを論じてきた。Peter MacPhee, *Robespierre* (2012)や Hervé Leuwers, *Robespierre* (2014)など、最近公刊された伝記も、文書館史料などを利用して革命前のロベスピエールについて多くの新事実を明らかにしたものの、革命期のロベスピエールについては、従来の研究とおなじく、基本的にロベスピエール著作集をもとにロベスピエールを論じている。研究代表者がこれまで公表してきた論文も、ロベスピエールの権力掌握を同時代人のロベスピエール評価も考慮して理解しようとした試論「ロベスピエール現象とはなにか」(『岩波講座世界歴史 17』1997年)を除けば、その点では変わらない。

しかし、成蹊大学で1999年度に海外研修の機会を与えられ、海外研修のテーマとして「ロベスピエールとパリの世論」を選択したことが、本研究の直接のきっかけとなった。すでに指摘したように、これまでのロベスピエール研究は、方法的にはさまざまな試みをおこなっているものの、ほぼすべてロベスピエールの著作だけに基づいてロベスピエールを論じており、ロベスピエールの権力掌握と失墜の問題をパリ民衆の世論=言説という観点から検討した研究は皆無であったからである。こうして1999年以来、科学研究費補助金の交付のおかげで、「ロベスピエールとパリの世論」というテーマで研究を続け、共和暦2年のジェルミナル・フロリアル(1794年3月～5月)までと、共和暦2年テルミドール9日(1794年7月27日)前後の時期については、ロベスピエールに関するパリの「世論」(民衆の言説)に関してある程度の見通しをつけることができた。しかし、共和暦2年ジェルミナルとテルミドールの間、とくに大恐怖政治期のロベスピエールに関するパリ民衆の動きや「世論」(民衆の言説)は、まだ十分に把握できていなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ロベスピエールの言説を検討するだけでなく、ロベスピエールの言説がとくにパリの民衆によってどう受け止められていたのかを検討することによって、ロベスピエールの権力掌握と失墜の問題に新たな光を当てることにある。とくに本研究では、ジャコバン独裁末期の大恐怖政治期のパリ民衆の世論(民衆の言説)という新しいファクターをロベスピエール研究に導入することによって、ロベスピエールの失墜の問題を新たな観点から考察することをめざした。また、革命期のロベスピエールの言説とパリ民衆の世論=言説とを比較・検討することによって、革命期の言説空間に関しても新たな知見をもたらすこともめざした。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するためには、フランス革命に関係する研究書や史料集を購入して幅広い視野を持つことが必要であるだけでなく、できるだけ長期間渡仏して日本では入手し得ない文書館史料の蒐集と解読をおこなうことが不可欠である。また、この史料蒐集活動に関しては史料を記録・整理するためのパソコンの購入が必要である。

これらのうち、フランスの文書館での史料の蒐集と解読にかんしては、2017年度と2018年

度は、夏期休暇を利用して1ヶ月間ほど渡仏し、当初の研究計画において予定していたように、共和暦2年プレリアル初頭（1794年5月末）のアドミラとセシル・ルノーによるロベスピエールとコロ・デルボワの殺害未遂事件にかんする裁判・証言記録を重点的に調査・分析することができた。しかし、2019年度は8月末に開催されたシンポジウム「アジアから見たフランス革命：日本と韓国におけるフランス革命研究の現状」の準備のために渡仏できず、2020年度から2022年度にかけては、新柄コロナウィルスが猛威をふるい渡仏ができなかった。そのため、研究計画は当初の予定通りとはいかなかった。

4. 研究成果

本研究課題の研究成果としては、論文「フランス革命とパリの民衆——「世論」から「革命政府」を問い直す——」によって2017年に一橋大学から社会学博士の学位が授与されたこと、

『ロベスピエール：世論を支配した革命家』（山川出版社、2018年）を刊行したこと、「テルミドールにおける「ロベスピエール=王」という噂をめぐって」（佐々木紳ほか『歴史の蹊、史料の杜：史資料体験が開く日本史・世界史の扉』風間書房、2023年）を上梓したことがある。は、ソブールの学位論文『共和暦2年のパリのサン=キュロット』の見解を「パリの世論」から再検証したものであり、は一般読者向けの著作であるが、世論という新しいファクターを入れてロベスピエールの権力掌握と失墜を試論的に論じた著作でもある。そしては、「ロベスピエールが王になろうとしている」というテルミドールの噂に関するB・バチコの見解に誤りがあることを手稿史料の分析から指摘した論考であった。また、拙著『フランス革命とパリの民衆』の書評に対する反批判として「フランス革命をどう考えればよいのか：拙著に関する服部春彦氏の批判をふまえて」（『史学雑誌』第28編第号）、「拙著に関する竹中幸史氏の批判に答えて」（『西洋史学』267号）を公にした。

本研究期間中、2020年度からほぼ3年にわたって新型コロナウイルスが猛威をふるったため、その間当初予定していたフランスでの史料調査ができなかったが、その代わりに獲得された成果には少なからざるものがあった。代表的なものとしては、2019年度におこなわれた日本と韓国のフランス革命研究者によるシンポジウムの記録である松浦義弘・山崎耕一編『東アジアから見たフランス革命』（風間書房、2021年）、「大西洋世界のなかのフランス革命」（『岩波講座世界歴史15 主権国家と革命』岩波書店、2023年）、ティモシー・タケット『王の逃亡：フランス革命を変えた夏』（白水社、2023年）などが挙げられる。それ以外に、わが国のフランス革命史研究を主導してきた二人の歴史家、柴田三千雄と遅塚忠躬の主著を中心に戦後日本の革命史研究を論じたフランス語論文「L'ombre portée de la défaite : La Révolution française dans l'historiographie japonaise de l'après-guerre」, *La Révolution française*, 19, 2021、日本の戦後のフランス革命史研究を量的・質的な面から分析したフランス語論文「L'historiographie de la Révolution française dans le Japon de l'après-guerre」（『成蹊大学文学部紀要』56号、2021年）を公にした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yoshihiro Matsuura	4. 巻 19
2. 論文標題 L'ombre porte de la defaite : La Revolution francaise dans l'historiographie japonaise de l'apres-guerre	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 La Revolution francaise	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/lrf.4677	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 MATSUURA Yoshihiro	4. 巻 56
2. 論文標題 L'historiographie de la Revolution francaise dans le Japon de l'apres-guerre	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成蹊大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 松浦義弘	4. 巻 267
2. 論文標題 拙著に関する竹中幸史氏の批判に答えて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 99 - 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松浦義弘	4. 巻 第128編第1号
2. 論文標題 フランス革命をどう考えればよいのかー拙著に関する服部春彦氏の批判をふまえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 53 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 松浦義弘
2. 発表標題 戦後日本におけるフランス革命史研究
3. 学会等名 日韓フランス革命国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、 安村 直己、吉澤 誠一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 主権国家と革命 15～18世紀	

1. 著者名 成蹊大学文学部学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 歴史の蹊、史料の杜	

1. 著者名 松浦義弘・山崎耕一編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 東アジアから見たフランス革命	

1. 著者名 松浦義弘	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 112
3. 書名 ロベスピエール：世論を支配した革命家	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------